平成２５年１１月２２日発刊 発刊責任者：森町森５４８番地 亀澤進 090-1567-6256 http://kamezawa-susumu.jimdo.com

町政新聞

「踏みしめて」第42号

～町の様子を皆様に伝えていきます～

始 平成二十一年 五月～

亀澤　進

山肌が赤や黄色に染まり紅葉狩りの季節がやってきました。昨年小國神社の紅葉見物に出かけた方は１０万５千人を数えたそうです。今年も大勢の観光客が押し寄せてきそうですね。しかしながら、他の観光地へ足を運ばせる工夫がまだまだです。皆で知恵を絞って、森町全体にお客様が流れるよう考えなければなりません。

さて今号は、先日実施した、議会における視察研修を主にご報告いたします。

第６回森町の明日を語ろう会は、１２月４日（水）１９時から下宿公会堂です。ぜひご参加ください。

観光交流客数の推移と分析

本年９月に町の建設課が観光交流客の分析資料を発表しました。

○平成２４年度は、新東名高速道路の開通により、前年度対比１２．２％の約１１０万人に増加。

○観光施設別の入り込み客数を見ると、小國神社が最も多く、平成２４年度は約８０万人。

○小國神社の観光客の多くが、周辺の観光施設に立ち寄りしない状況。

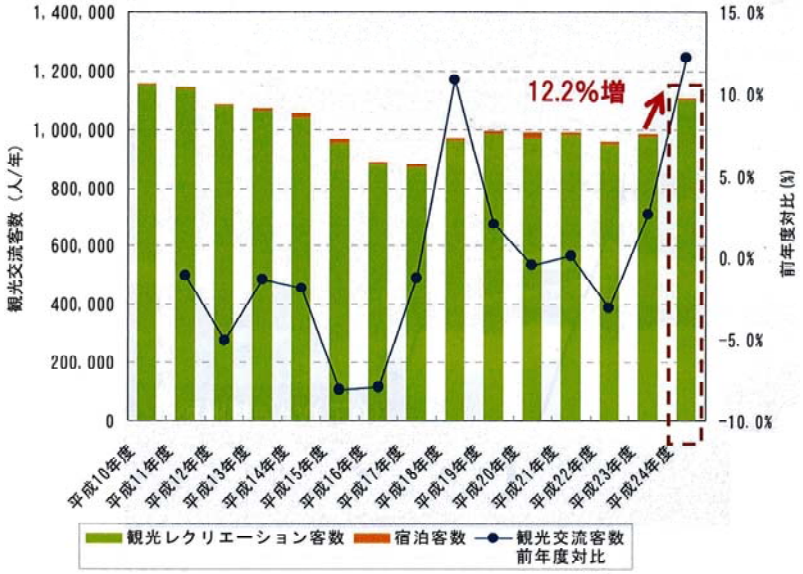

図　森町の観光交流客数の推移

平成２２年度	９６０，４９５人
（前年度対比	－３．０％）
平成２３年度	９８６，１８７人
（前年度対比	＋２．７％）
平成２４年度	１，１０６，８６２人
（前年度対比	＋１２．２％）

遠州森町ＰＡスマートＩＣ（Ｈ 26.3）が供用開始となると、更なる観光客の増加が期待されます。

しかし一方では、住民の安全・快適な生活や観光客の快適な観光が、困難な状況となる可能性があります。

本年より一宮周辺地域渋滞対策協議会が設けられ、調査データをもとに協議が進められ、対応に当たっています。

●掛川天竜線谷崎交差点において、静岡方面からの車両右折禁止

１１／２２（金）１６時～１１／２４（日）１６時
１１／２９（金）１６時～１２／　１（日）１６時

※ 小國神社への誘導看板に従って通行してください。

●小國神社周辺の渋滞情報をツイッターで配信

［https://twitter.com/morimachijoho］

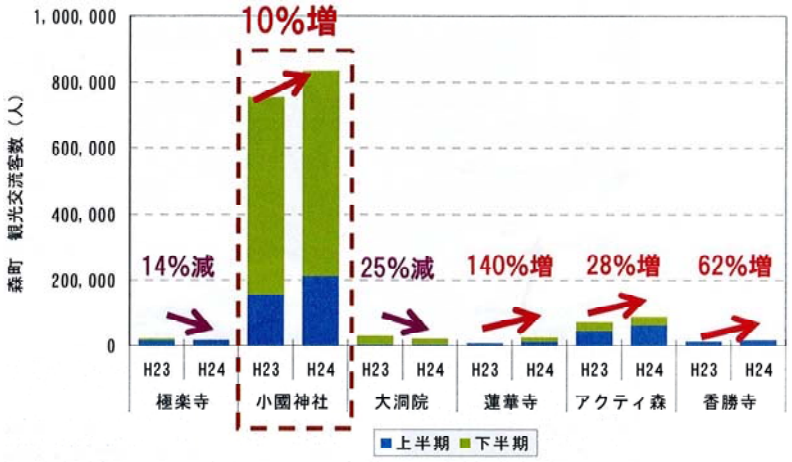

図　森町　施設別観光交流客数の推移

右肩上がりの町を視察！

１１月１４日～１５日に、森町議会における所管事務調査を実施しました。調査事項は、山梨県中巨摩郡昭和町の人口増加策の取り組みについて、農業生産法人（株）ハーベジファーム（甲府工場）の六次産業の取り組みについて、道の駅とよとみ（中央市）の運営について、埼玉県比企郡小川町の小京都の取り組みについての計４件です。

先ず、昭和町の人口増加策の取り組みについてご報告致します。

昭和町は甲府盆地の中心に位置し、山梨県内で唯一山のない町ということです。平成２４年４月１日現在の人口は１７，７４２人、世帯数は７，２９７戸、面積は９．１４ｋ㎡で都市近郊の農業地帯として発展してきたそうです。

県都甲府に隣接する地理的条件から、昭和５０年以降は東西に工業団地を造成し、新興工業地域として大きく発展し、現在も都市化や近代化が進む右肩上がりの町ということです。

昭和５７年から１２ヵ所に及ぶ土地区画整理事業を実施し、平成１１年度から今日まで３千人強の人口増加を実現しているそうです。

今回特に参考になった点は、区画整理事業を全て組合施行で実施しているということです。組合施行は、行政区を越えて実施できるからです。また、区画整理によって農業振興地域の解除も行えます。

現在区画整理を実施している地区には、大ショッピングセンターも建設され、今後においても更に人口が増加していくと思われます。

こうした躍動に合わせ議会も活性化しているようです。毎年開かれる山梨学院大生と議員とのワークショップ（問題解決の手法としてのディスカッション・討論会）と山梨学院との共催による全町民を対象にした議会活動報告会、改革・変革する議会として議会基本条例の制定、議会だより全国１位及び４年連続県１位（Ｈ２１～Ｈ２４）、議会主催による町政施行４０周年記念行事の実施、議会災害対策本部設置要綱の制定、まちづくりや議会運営に反映するための議会モニター制度の発足等々、町のために大変頑張っているようでした。

六次産業への取り組み

次に、農業生産法人株式会社ハーベジファーム甲府工場の六次産業への取り組みについてご報告致します。

当社は、平成２３年３月に設立され、北杜市認定農業者（農場は北杜市）、実験栽培、六次産業認定業者、冷凍加工工場建設を経て、２５年２月に本稼働を開始したそうです。

農場は、標高８５０ｍ～１０００ｍの約１６ｈａの耕作放棄地を利用し、周囲２．３ km に鳥獣害フェンスを設け、頂上部には潅水用のファームポンドを設置してあるそうです。

農場では付加価値の高いやまと芋を栽培し、工場ですり下ろし加工及び冷凍をして販売する形態を取っています。主な販売先は、親会社のレストランや生協に卸しているそうです。

役員構成は代表取締役以下５名、従業員は社員１２名（農場５名、工場６名、管理１名）、パートは３０名（工場２５名、農場５名）となっています。六次産業は、生産から加工、販売までを一括して行うことですが、加工工場に就職された方に暇なときは農場で働いてくれと言っても、なかなかウンと言ってくれないのが現実だそうです。

設備投資にお金をかけすぎたこともあり、現状は赤字ですが、今後は販路開拓や現物での販売、工場稼動時間の延長等黒字化に向け取り組んでいくそうです。

加工された商品は、「北の杜やまと芋」という名で、やまと芋以外一切加えない「純とろろ」、粘り気の調整や薄い下味を付けた「かけとろろ」、特製出汁で味付けした「味付けとろろ」の３種類を販売しているそうです。

芋栽培については連作障害等実験していかないと分からないことが多いので、収穫量についてはまだまだ未知数ということでした。

森町にも耕作放棄地があり、そこを活用した六次産業を進めることはとても大事なことです。しかしながら、集積されたそのような土地はなかなかありません。すなわち大量生産は難しいということになります。少量生産で利益の出る加工・販売を実現させるためには色々な工夫が必要となります。付加価値の高い作物の栽培と加工という点では、大変参考になると思いました。